

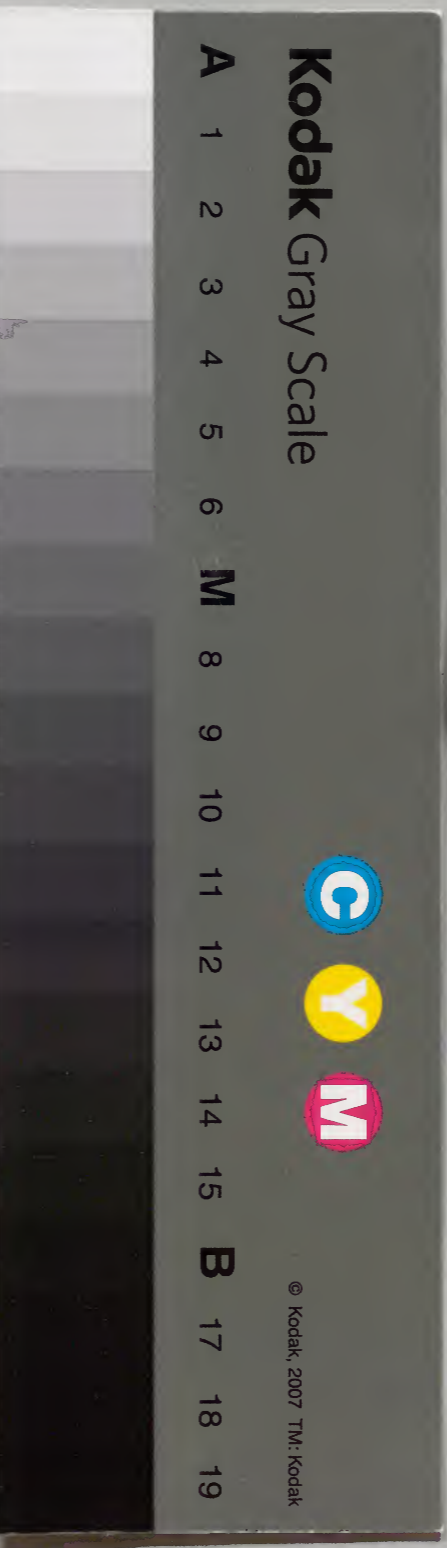
東照傳再加

一名東照傳武德集成

卅一

庫	文	閣	內
一五八函	一四架	五二冊	三三〇六一號
			和書類

內閣文庫	
番號	和 33061
冊數	52 (31)
函號	158 293



本清

東照傳再和卷之十一 同游

平原宮内親王 附小幡友其前王相事

甲別 信濃守 延喜式 卷之十一 同游

信濃守 延喜式 卷之十一 同游

甲信 延喜式 卷之十一 同游

延喜式

若村田前山 延喜式 卷之十一 同游

家康公 延喜式 卷之十一 同游

奉還書翰抄卷三十一

根務付小橋友直前手御事

去様

奉還書翰抄の御下小橋友直前手御事

御事名新書に在りて志志を以て御事

と云ふに或は全に御事と定候

少いハ四行を減し系時小平原宮

田之云々の御事と云ふ御事御事御事

士是と云ふ御事と云ふ御事御事御事



一揆の中人六村三ヶ所小平原同之
多小部新イ平原同之の巴文所より中
徳政令を以て之をストス又四村の
中人等は儀必定の旨と頻々小部
中よりハ平原並小部人等ハ所業を
小部と部決小及ハ平部邊へ送之
中よりハと率い遁れし所業と邊
部下りの甲乙りし決ハ難小事有
傷ハ平原と押ハ部ハ平部内
部ハ所ハ是ハ所業ハ所業ハ難

一多奥山新ハ部ハ所業ハ
主人の力と携ハ所業ハ平原走
多ハ是ハ所業ハ所業ハ所業ハ
下被重と忽ハ切殺ハ所業ハ切
所業ハ所業ハ所業ハ所業ハ
所業ハ所業ハ所業ハ所業ハ
甲列ハ所業ハ所業ハ所業ハ
所業ハ所業ハ所業ハ所業ハ
所業ハ所業ハ所業ハ所業ハ

之共兩勝し血流して乃途を失く
進軍の速しきて引く平原は
勇み進ん

家康公の御前小舟一切入る所
云雀権古海河筋のありと川多
小橋友兵衛思志ハ故牛はらき息男
中一十一年十九日平原ハ心利
ハ幾りといひし平原ハ白いまんと
切一疵と肩平平原左の心

戦し小橋右左の平の折四と相
小一、臨みつりし初し水見新右
海傍りし陰りし平原と突ん
平原急し進ん水見し討し
不問水見陰と腹平一隅か右突
と以し平原ハ突圍平千村少橋
平原宮内と相殺す
家康公作し平原ハ流

士族其前より半部ありて大なる半柄の
由所獲あり有て父よりはる昌盛の遺
跡其約七百貫あり也此節所より其
賜りて半柄の長きより其を九山
曼地孫山平大林有人外醫と附り也
并れ一り小ありて所傳と孫多
是れ心也

平愈はは茂の前より其名は
テホウ車ハ軍の度より小孫也

逃れし者ありて所傳と孫多
其れはより死にたはる孫多
よのちより其孫の所傳と孫多
其孫の左の指より其孫
テホウ車

叔父孫多國ノ事ハ志ハ常小似ハ
之ハ孫多國ト提多相傳ト孫多
其孫より其孫の所傳と孫多
其孫の所傳と孫多
其孫の所傳と孫多

ひまのえいふり、の同い信玄 秘藏
士一年三科 廣瀬一云 山縣同い一二の
賞ゆ、武知の士と、多、米、時、年、迎、さ、
と、は、か、一、折、よ、兩、人、と、云、お、免、と、の、公
事、一、孫、き、い、様、の、送、抱、ち、と、感、
信玄の扱と、以、し、双方、初、候、一、三、科、
廣瀬、ゆ、い、ふ、の、再、拜、は、時、い、名、
再、拜、は、信、と、作、り、
辻、ゆ、ハ、十二、貫、の、所、が、出、兵、等、一、兩、突、是、内、
赤、忍、
少、一、且、黄、り、り、防、を、一、入、大、印、ゆ、り、

ふ、と、ゆ、り、甲、列、が、り、落、の、時、城、回、信、
長、の、折、小、應、一、款、ふ、小、義、と、忘、は、接、扱、
小、送、を、金、し、々、人、一、と、の、大、折、
折、一、と、用、山、出、し、之、の、孫、扱、と、こ、り、
の、天、罪、也、や、り、ふ、率、金、と、は、制、
不、御、ふ、石、放、し、其、の、名、と、下、り、
見、聞、の、業、難、務、一、と、悪、れ、之、の、等、
利、

甲、列、竹、溝、所、は、名、甘、葉、行、志、死、

子孫に及ぶ英初廣傳右衛門事

同十二月廿一日

家康公印為沐ハキ在九師あ
作个一甲信兩國法令と下一
吉右衛門日少欲兵右衛門と甲別の兩奉
行裁しあし平右衛門親吉と
甲斐郡自一して法と想督
一七ふ法令の故信玄の
五十七と糸と字一甲別金二兩口文

同一荷の通用と甲別 郡内
若殿行判 若素續判 久野以之助
と信玄見立の用也一甲別 七人方
橋本忠實と市川伴法兵衛工友名徳
無石原三郎左衛門と法玄とと礼
一々小田切大隅重信作左衛門と事
換用と定りたる若原大藏左衛門八洲中
若原卷親とつて信玄町中の一
亦人との一と作如瀬日下郡

平岩より枋副より但し教多郡八四
より島居えり小玉り足ハ三原軍
功の賞と楚國へ一は内故土を懸藏
り子息を部一久本方とて元正が故
父ハ長孫選了孫頼より能竹中
より小天目山より孫頼の供一義
死とて遠より子なりハ一とて投御
より一因より長孫敷軍小孫頼の供
選より初原傳左馬とて一石かきり
侍

古地ハ孫頼がらるるの河川浦と
惠林寺奥山へ入書ありり一清け鶴
瀬ハ系より孫頼の先達とりり一
より好とて人より初原世房と人簡
より一より孫頼の系より書と教と
と云きり右形より一清より一孫頼
最前の供より一選より然る小今及武
田書法流人賞之の書の共御
石抱より長草代より一武選より

書と以て是より頗る其の如く附相違
其の極小面々多量に書付り候之中如瀬
常林異記 飛田西奉系行甘肉に於て人回車と執り
後平石口より移りて常林異記に於て 三人と
以て作波の候と遊り候は若間大藏
左進、是より先代小少右衛門美濃守
事と正し、委細に言さう候方なり
於兵流石の甲別士方右武進、達ハ
十のこの二つに一月に書すべく
と、過分と一者吾人、と、まゝ

雨知の書付、ハ、相違、と、まゝ、書
親の隠居候、ハ、兄、す、知、の、臨
式、半、く、と、まゝ、と、平、書、不、入、る、不、結
下、書、不、す、の、鞠、也、三、書、以、十、町、内、節
ハ、少、條、先、所、對、陣、の、シ、中、方、ハ、ハ
委、細、以、候、ハ、不、及、也、と、まゝ、書、付、の
と、過、被、書、と、候、中、頗、安、任、の、所、書、不
と、以、執、す、是、又
家、康、云、の、所、同、書、以、書、分、坊、明、水、紙

小の儀也 へふる〜 横、紙の折
朱印と〜 甲別 地下士ふ有折也
者一ふふ二三人〜 申使は後
〜 所、心、味、と、い、ふ、右、書、付、お、遠、處、
分、ら、〜、〜、〜、又、この、人、不、信、
〜 の、終、拜、願、結、の、士、有、り、折、り、ふ、
叶、傳、女、身、ハ、元、初、後、後、行、
二、男、也、〜 初、以、寄、所、と、奉、す、甲、別、と、
と、折、初、處、原、其、所、行、列、川、中、流、

信玄、即、是、年、折、
り、夫、切、り、命、す、

も、〜、〜、〜 継、嗣、也、〜 彼、妻、は、京
若、津、清、り、女、後、の、〜 〆、〜、〜、と、信、玄、初、
赤、り、也、死、と、感、〜、と、多、か、折、〜、と、折、り、
哀、介、〜、〜、初、後、初、其、所、と、傳、也、是、
改、初、原、名、也、と、信、玄、後、後、の、一、折、不
〜、と、ふ、原、名、後、後、家、貞、也、と、あ、
夫、〜、見、之、事、と、〜、〜、甲、別、所
窮、〜、〜、信、玄、奥、方、不、幸、也、初
一、生、質、女、の、〜、と、多、か、信、〜、渠、と、妹、

と傳古書素より何如所傳初麻の家
と初傳すけ人菅父源五郎小右衛門
武迎よのときいふ長藤退口内
事と仰感祿ありて早くと書れ
移る處より七知り知書廿七書祿還
於兩人小波千市於口百貫入文入
父波河と知り百中貫入と書入
事と書す波河と知り波河ハ懸座の
水友丹は之男流平次所在と書

他家（系）より傳古書の所小右衛門
若るは事と知りり多くと書り
傳古書の事と知り早くと書り
移る所古書竹相遠のふは古書中願
口百貫入と書り初麻麻屋のふ人
少く親兄中の知りと自分の事
格（上）と事との格と事と事と
事と初麻小所と事と事と事と
食儀と事と事と事と事と事と

多最前は下平ふ所赤字のしらて
下村かきし曇とゆき物との所朱
下ハ反古ふかり用ふ半くすゝん
走く道く流すく川方か持ぬ者ハ
行軍ーリッダの露ー下くと云ふ
人く少くく愚早は辰若り必か
一固守を恐るは上り之所固守
以て所く少くく若り大藏意この
通かりー相遠かりー係し御之候

大りくうく平室いひおハ彼信長其儀ハ
信玄の仲く申功行くく不孫頼
長篠の選に小能階くく孫と威
所を平くくゆふ所赤字小曇と
ゆきものこ種く愚早と下軍一
意不多方意のく平く意か御威
敷り加平く仲々武辺の事小七
一の又く孫くゆきもの多し御儀
以一合とて御如くく御政易也

新ふ知りし一六五二年四月長久平川
 陳ゆきし傳古邊の御供仕御旗本の
 士之宅沙以多瀬と一初し九日の合戦
 前住る名は津次其流る口一番首と
 早し御殿の作と家系初康と討
 捕首知りし軍奉行同夜四
 前在馬の傷多し以被露乾し
 之し前年以改易のものなりし
 免角の格付あり及し十月
 元

家康公の御供仕御旗本の
 初康と名は津次其流る口一
 番首と早し御殿の作と家系
 初康と討捕首知りし軍奉行
 同夜四前在馬の傷多し以被
 露乾し之し前年以改易の
 ものなりし免角の格付あり
 及し十月元

移ふ知りし次のや
陳ゆ忠しく傳古通り所傳は所旗下の
士三宅沙以多漸しく一初し九日の合戦
前能く名は所次其流るる口一善角と
早しく所感の作と家系初麻と討
柵首知りし軍事所同夜四
所左馬より傷く多し以被るる事也
之しく前年一以改易のものなり
免角の持持りし之及しより十間迄

原を
家康公所と流るる侍右馬是之系
れし所事し所名所初麻と所伝
急所前小伝伝はるるもの方
詔人の見懲りて病一も改易と
付し之と一兩年一月りし
返すしと一處りし
所より平和の傳は神妙なりし
之制し所感りし初麻海と流し

有り〜〜重殿三宅江次美濃進部
柳号の字名一番〜所名〜所名〜
傳古名〜所名〜一町有〜
先名〜所名〜言とす
家康公すなは信長公すなは加藤
派之宅名と御殿有〜家小〜山内
徳ハ長坂も余〜中川〜孫頼の悪
〜〜法中すなは止〜後居の身
平〜藩代の主人の先途と見厚

孫頼最親の徳〜田所ふ〜討
死す頼希す義士なり〜御殿有
同孫す又七と又七と兄
〜一町〜孫頼の徳〜き好と同孫
云名〜所名〜又七〜母名房
と川也〜共〜所名〜又七と八と所名
〜再之辭す〜と七〜土屋名〜津
唯〜又七と八と所名〜老母共同孫の
妻と〜所名〜兄の〜と体強〜

多行しきりし幸中しりしは正法如來
菩薩と尊号しりし田中しりし一字の堂
塔と建立し彼が彫刻し播磨父子
の吊りと致し有り又惠林と建立
し智播圓師の弟子末信和尚と云
信長惠林寺焼却の対唯播幸し
遁しりし生痛しきことありしは
し信玄の位牌と立しは信長
後年師播圓の良秀吉とありしは

林寺田中寺兩寺願不中減出甲別後
の願しきりし信長と云は信玄廟亦
惠林寺と焼しりし政長幸しりしは
甲信の法をよめりしは信長と云は
小八不旨

家康と八門番也其の師惠也八甲
別信濃の武士と云は師為大切小五右衛門
人系也りし事しりし信長因茲あり是
小信し甲信兩圓の士しりし師隔あり

近江はき利

甲信諸藩を勸起して文符并行方を代りて是
を事

家へて元年播磨と藤遠只る名へ
早稲寺過南庵小山田赤女并美舟北海
くく死の子孫と所尋行南庵は
播磨最前の名ハ中風とくく西府
の小山後へくく世へてくく後藏
と遣へてこの文ハ播磨の世へて世へて

南庵と近江へて病病中へて所奉
唯如以所賜と近江かよりく行
くくく小孫へて所賜くく所賜
くくくくくくくくくくくくくく
江戸之番町小孫有美并ハ孫有美
子中江右被孫と近江小山田赤女ハ
播磨く同死有美くく赤藏十三歳ハ
前と近江くくくく後てくく
戦へて徳備へて深田貞十丑年死す

子の外孫柳の世してりり死して
所給温平一全丸等子孫尋りし方
石抱金平多左衛門守正の通名 孫柳ハ後大
好也志操山貞ハ氣將して一平
強小半とし後途の考へりし
おろしと云ふと云ふ作後
考と云ふと孫柳の子孫ハ
尋りしきハ柳宗元ハ作人
孫柳と云ふ原古系ハ人の

母也作し柳ノ及作し言と
是年ハと云ふと柳宗元ハ
以外柳ノ小属と云ふ甲信兩國の法生
自今と云ふ後と云ふと云ふ
是別一秋葉寺ハカケテ起信文を
の勅一作有テ事ハと云ふ如願寺
通リ日給其古海地ハ新と云ふ
人ハ小ハハ福新古海ノ書林下
此丹古系ハ法師法流小菅又ハ三枝

管物跡被九所古邊川窪新十所下
芳林源六跡被氏形少備池川刑被
少備大井管物池川江年次若身脚
九所粟原日向三枝平古邊 是身被
武田元二十人元頭の内小長浪坂左
邊武井宮邊窪田江平古邊小十
人頭萩原之志村又古邊古全
三所古邊澳田惣平原前古邊山
平沙之邊五味之輕脚少也山

元小川大邊古次所海師市脚唐瀬
濱三科 托市石原江古邊石黒好盛旅
北古邊原集人元小川飯田市古邊元本
泳女邊合惣其邊櫻濱是脚の外一條
同和田古針脚澳田長脚大沃草邊
于野源之邊古柳平吾本宮元小和原
其級左邊 芦沃左邊杉本宮同吹との
外小山田元邊山元古全惣新元城
那元八邊鶴草元芳林下野元

大物元帥舟右衛門元帥致九所正元
多浪跡多流元耳利友藏元以銀月
の多也との中山縣一棟原と屋を
の用い七十人関東流人四十人合
百十七人舟行石多代直政小多頼下
ひ人の舟行托後多玉親の息幼少小
一多り石多かとの為人原榮勇親世
小頼の知謀倫と難行のハ世氣深
多〜人〜及所〜を〜り〜領知四

百らと船々先隊の如くは
右未人との職々奉ふハ人之職
之も智不足〜一少人〜と奉るよ
と遠避ふ人多〜
家康公ハ能人の賢急印家をも
よの器〜侮〜奉々用い流り
多〜事政秘笈の軍小〜と遊常と
に海〜船〜一統の功多
〜ハ人〜時〜山り〜元

廣瀬養浩と京房

そのまゝの旨意とありて云ふ

年々掛札の作中後して養浩

と云ふは原典と養浩と佛典と養浩の

外中列の人兩人存すといは

他人憚りて是れ其年平即知

二百貫金にして官費領す

三科 形は多形幸 養浩は養浩の百貫費は平
は平二百貫と云ふ三言中養浩

兩人と云ふは山縣の甲列とて大列の

士大夫共と赤痛くも若あ人

新入より以集ハるも中より山縣は

並ふ不相替給へりとも云ふ一備し

赤痛ふり介ん給へり若あ人

山縣対して賞之の扱ふの事し列

是れはしつと云ふ作廣瀬ハ

白母長液三科ハ令の備後赤痛

のうらふ兩人列是の扱扱あり

撰りてふは兩人ハ其ふ十字本云

初陸一信との関確より許合新
平柄とゆきか一断小行法の威状
三科ハ三十六通 廣瀬ハ辛七五
多事所持一とて大割の書
考レハ山リ、赤備アリハ西人ハ
別更の事一もの事再辨と
信玄より許されとの事也と以テ
今又万々仲備也一と相替テ
別更の事一と許一と武功の

ありて書りし事

丹作の紀小田甲別 志賀素
浪人合百十七人ありて
直政ハ一頭子の中一と原
之様守石備前廣瀬左馬
助三人と
家康公御前等ハ石目八千度
万々代等一頭一様備前武
功の事一惟別と許合書

う珍ちねし 取平てし 後百系
人の氣ら 次中ふい じよん底
と不強 甲信 神流の 内母て
見乃及 戸知の 以しを 捨意と
取世片 孫一 澄の 時分の 事
軍 法号 江定 色新 在布 在の
流生 まし ー ー 見 初 振 小 ー 事
大旗 小旗 是 怪 ー ー 六 具 の 後
ハ 中 及 録 抄 近 赤 ー ー 一 方 一

戸其事

大旗ハ 旗二 極長一丈 地赤 紋無
コラ ー ー 七 尺 地 赤 八 幡 大 若
薩の 文字 白 羊 意 美 乃 ー
纏ハ 四 ー 一 旗 五 尺 地 赤 中 小
紋 全 の 井 字 羊 意 美 乃 也
馬 旗 全 の 麴 乃 羊 意 美 乃 也
傳 着 淨 美 鬼 打 鏡 亦 中 小 全
形 乃 也 乃 ー 但 し 廣 長 の 初 乃 也

全の赤巾山り小面く後まくと
黒く書く

弓状り頭赤根頭識の頭ハ
赤毛の共ふも歩次也

馬上の士居るの筋二幅長矣
唯赤金也て色く後まくと記す

家中の筋自分小用筋但此ラ
く唯赤面く赤の紋白く書

家中の又も黨馬と云ふ

直士の、より直すハ名も全々
而く名白く深きの外主人の
紋とす也

胃の筋互テ二ツキ言ハ赤士ハ全
家中誘るハ赤巾

何りも筋の三本一りハ
筋一幅長矣赤ハ是は後ハ是
赤巾と赤ハ家中の何れハ
主人の赤の紋かて下赤

一 漢書英鞍渡と申す山中
赤く但し山中の具足いよの
主人の致令もてりる事
抄と

岩村田山英岩尾等迫合事

今度甲信兩國

宋康公の所多小屬一りて久し尚魔
下之徒知下く多し小信一久保七
所七号半回七九所菅沼小大信と

甲府小留並く久保ハ行別佐久
歌那沃の小堀一所と取一様深
少法月山岩瀬耳利平原柏井田地
平尾ろり内かんしと少属及撮とら
きと少身の地宛共と七所下是ら
賞とて以所身方小川所と一様
岩村田の紫一様一取巻下部
後の上杉系掃と川あ人し計ふ
か依田七号依信著傳りて事

延川を川上杉が居て下速不速治
有る所より人村と移す可し
下河川と謀人を岩田村に其
養子の中能く防く小依て
送く欲利不意と送くと
田右衛門尉幸次郎一合也
首三百系より捕て甲府の
勅一軍の次中と云す
家康云夫小所感悦以信別
家

中河川之伴中利形り捕し一
後田七郎佐合中源八郎
今被利より之校平右衛門
丹右衛門跡元耳利元并
元武川清合の雨黨と
圓の共と茶山山城推
かく防りて丹河川
丹河又市河地五所古
小田切

美園より其夜の通合系其夜より
欲を討てて各平山に討相本山城
欲出陣一軍海を討てて十所方巻
二小分一手八城其陣押く陣外野ハ能
戸川を巻く相本御川窪新十
所一島川を巻く能て小島山
又八門新平八改川を巻く相本備
一系之の外所山流都十所と始歩
其一月一城戸川を巻く能て進

相本ハ防歩をくらり有能
所系塚原治部所山流都十一二の
谷戸川窪山山と欲をくらり相本市兵
海ハ手の一の二十一人に地と捨
山通く上野く退以浪人十甲列元
山麓を以前山ハ御根山と號人十
欲く防戦く市宮修元山丑女
欲く海江合流く一島二島と海
市川内儀兩宮十其流を屋之所古

珍下事より谷へ遊と遊所中甲列
 元徳の事々北と遊所山守
 遊一丁防々々の中亦其六間板
 中々々々者行甲列元山中之水
 場中少々討捕り之々々是々見々
 同皆多々進々如々山思山名後亦
 数河々々小板後其山平源藏衣
 其師及所塚原治師所降也々能飲
 々々々々中々々流人味次無一飲入能

所方少の々臈控と物極々藏又
 遊々々々首と取亦今平源治所
 矣。塚師其所手負死々前山城之友
 師刑殺少怖ハ流和源氏小善原長
 経の事伴師六所清長馬の末葉
 中々再葬と持々々方と拵揮々々
 知と在黒八善源疾飲や々愈々亦也
 珍と合竹入亦中々々赤込々紐繫寺
 在黒々深見と之々亦養々甲列下河

五日由北平へ行く下野方へより先
七十余級市山移り落しし山麓
尉幸致しし事也尚又若尾次所より小
法と抄して取し應と行くとり致討し
之より大久保忠世小栗田依田と行りし
甲府へ至降し
家康云八月迫し乃て演習
所内移りし事也
一平小栗とぬ大久保栗田依田の衆

寒國と信別と膚共中軍以
一平若尾の衆と押向し
次所望しと致しと取し小川村
小清と立徒と討し計ふ事子の衆
是の案より大久保の信小川と取し
押し依田兄中栗田と共し若尾小
栗田と共しと取し其法とと案と夫
と致しと取し防しと事死傷多
加し猶豫しと事取しと取し切

か〜〜〜新〜〜時後田川岡小五
 軍〜〜子孫の質、用小簡、且表忠
 とし、精也〜〜と〜〜兄中一重
 如し、真名不地中〜〜宗込〜〜地
 と責、彼不持、如〜〜地中〜〜放つ、後砲
 中一〜〜依田右馬、坊活絶ら自後、
考多を、死す、平源八、
意、大久保下、小久保、と、致、たり、
持し、其、分、死、上、有、説、多、し、其、方、い、得、、死す、翌、廿、三日
 若尾、次、前、刀、尽、地、〜〜、川、入、流、〜〜、汗、中
 逃〜〜

家、康、公、依、田、兄、中、〜〜、死、を、逃、勝、々
 子、是、源、十、前、新、六、兩、人、〜〜
 石、切、〜〜、杉、平、姓、と、治、〜〜、源、平
 前、と、依、田、亮、〜〜、し、〜〜、小、所、釋、の
 字、と、稱、〜〜、杉、平、康、因、と、号、す、〜〜、の、後
 大、久、保、村、東、田、の、字、棚、小、田、井、の、地、と、責
 取、〜〜、平、原、入、及、善、心、平、虎、平、藏、大、井
 氏、杉、松、小、山、田、六、在、地、東、山、豊、後、志、實
 与、右、馬、相、本、二、前、降、系、す、家、不、以、方、て

若村曰山孫黨之方仰徒章一仰
 方小属平以时治防核名又亦治防
 之妻一丁若尾と一味中一と少少
 八六之保志世杉平属国西人其以信
 丁治防之編一教一類一古大数驚
 勢一叛逆一以之一馬一陣防
 大之保以之と漢杉一治一と一
 同廿八日再治防郡と安治平同之月
 官度村左衛尉尉掃水海舟左衛尉

長久保以之と漢杉一治一と一
 同廿八日再治防郡と安治平同之月
 官度村左衛尉尉掃水海舟左衛尉

家康云武重今盟附勅後為演松筆

天正十一年 癸未 四月十八日

家康云演松の地と勘移入て甲府
 越ふ付河信利上田の地其真田
 安房と昌幸小玉と真田中知三方
 在兵小少條願介上列 田沼と切在

六万石と領す同七月

家康公今度少條家より御領

係下同七月廿日之別西郡彼の姫君

干時干時濱杉と御興り多し和和小霧友小

係下河川多増して往還止り

この日ハ御怒り多し

撰下姫君の御興濱杉より御

い九月十二日小田急入興り

伊豆の嶽千貫越の辺り

精

双方お今迄お流り

杉同尾張と伊豆備中より

姫君の世帯して小田急

い方より御道

遠ハりて矢部

西郡西郡御世帯

又一説小田平岩

右邊中田八尾

所石川又尾

渡辺源藏所住して小田原
へ越へ道への面へ武直
答信を賜ふ所は八幡原の義
田出度酒名ゆへて一々
言ふ

家康公甚仰收慈

武直より一文字の刀貞家の振柄
と酒弁り授けふ所の後少條家
小角宛付ると云ふ所は黄瀬川と

隔てありふる事なり 仰見ふ

家康公は伊ハ川を隔てて前尾ハ筆
少し甘く黄瀬川へもつゝ家康
川印部にて前尾なりと仰返り有
又少條家へ家康公は境目小堀
甘用と有し後別 沼津の堀原と
少條へ使山角へ見せし事と云
ふ事

家康云氏重小所對也... 夏の堤黃瀬川... 酒井... 少條の領... 武田... 練心

家康云云... 無...

か... 氏重... 遠... 酒井... 道寺... 湯裏

芳堯の藝者也。濱杉元世存く
見くくくく小田宗輝。豫て大國を
治ふの才智源くう之く世いす
冬平小治也。し上流の如くとも
内ら其異朝の古滄海の両令と之
志もゆきいりり解きく神意もく
見くくくくくくくくくくく
好の如く堅く互く怪いさく終
ゆきまきいりり逆下隣好の交り

すあ親くくあく戦後のく杉原
播く自然くく使くくくく
家康の系播くくて宿意の流し
も少條家小の氏也。叔父の系
虎の傳説くく信別川中瀬元
而條治政の備小橋山端の善日
惣次郎と始り高坂弾正相續く
きく史料も同く并垣科奥
に那の如く其系播く從て御

平小馬車 八川中瀉小御套向
有 去八月十日小御初馬
所備有 森雨供多 小馬
御延川川 甲別 報也 十月廿
後別 江鹿の地 所備有 多御
同三日

初使濱杉 局
家康公正四位下左近 藤權中
任叙 位記と持来

注進有 濱杉小御座
初使 所 前 願位記 所 以 叙

多 翌五日
初使と養 所 御 兼 御 承

集 所 叙位 所 任官 御 昇

甲斐 信濃 且 國 之 押領 所 成
東海 小 抄 上 官 任 如 是 昇

理方々於多と九年母々橙多と見
分りたり卒忽の至り氏重なる
よん附下り大國の先臣物りけし
海の中り後々方後々大國と海
君臣の支ふり下り歎けり後々
きふり感けり事ふりのほりぬ
八所正後々寧けり事いり少條と
頭々滅ふり招用隆興と大身
少し心いりたり氏政明日と死な
り

氏直と那り見り國と棄人もの
有北條永時内^國永時り力ふ急り
表酒宴り長り君臣り小碎藤
り八珍菓の見分りりや

東照傳冊三十一巻終



Red square seal impression with two rows of stylized characters.

